

「職場見学・職場体験で育てる情報活用能力」用 活用の手引き

I 育てたいキャリア能力

○情報活用能力

学ぶこと・働くことの意義を理解し、幅広く情報を活用し、自己の生き方に生かしていく力

II キャリア能力の育成を行う活動

1 活動の目標

集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

2 単元(学年)とねらい

単元(学年)	ねらい
職場見学(1) 職場体験(2) 【職業理解能力の育成】	・職業や進路にかかわる啓発的な体験等から、学ぶことの意義の理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計に生かす。

3 育てたいキャリア能力との関連

職業や進路にかかわる啓発的な体験を通して、学ぶことの意義の理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計を立てる職業能力を育むことが期待される。

III 指導手順

1 目標の確認

活動に当たって、個人の目標を記入させ、自己の活動にキャリア能力の視点をもたせる。

2 活動の整理

事前事後の学習から、活動を通じて得られた情報を職業理解能力の視点で表に整理させる。

3 自己評価

キャリア能力の視点から自己評価させる。このとき、根拠(理由)を書かせる。よさや課題を具体的な根拠(理由)をもって評価させることで、それを基に目標を立てさせる。

<自己評価例>	<記述を見取る観点>
調理についての技能的なことだけでなく、食材の仕入れや販売、お店の経営などについて教わり、勉強しなくてはならないことがたくさんあると知った。調理師になるにも学校のいろいろな勉強が関わっていると知って勉強になった。	【経験した活動を具体的に振り返り学んだことが明確化できているか】 「調理師になるにも学校のいろいろな勉強が関わっていると知って勉強になった。」 ↓ 体験を通して学ぶことの意味を明確化して、貴重な学びの体験を評価している。

4 行動目標の立案

教科の活動を通して学び気付いたキャリア能力をこれからの活動に関連付ける。ここでも、単なる目標とにならないよう理由を書かせる。

<自己評価例>	<記述を見取る観点>
調理師になるためには専門的な知識だけでなく、幅広い知識が必要だと分かったので、学校での学習も将来の夢につながると考えて各教科ごとの目標を立てて頑張りたい。	【明確化した評価を基に生活に一般化しようとする目標になっているか】 「幅広い知識が必要だと分かった」 「学校での学習も将来の夢につながると考えて各教科ごとの目標を立てる」 ↓ 「幅広い知識が必要である」という明確化した評価から、学ぶことの意義を理解し、目標をもって取り組もうとしている。

5 総合的な自己評価

職場見学・職場体験・高校一日体験という3年間の系統性をもって繰り返しキャリア教育を学ぶので、今までの活動を総合して自己評価をさせ、達成度合いを測らせる。自己評価には、評価項目ごとに4点満点で判定して総合点を計算させる。

「高校一日体験で育てる情報活用能力」用 活用の手引き

I 育てたいキャリア能力

○情報活用能力

学ぶこと・働くことの意義を理解し、幅広く情報を活用し、自己の生き方に生かしていく力

II キャリア能力の育成を行う活動

1 活動の目標

集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

2 単元(学年)とねらい

単元(学年)	ねらい
高校体験(3) 【職業理解能力の育成】 【選択能力の育成】	職業や進路にかかわる啓発的な体験等から、学ぶことの意義の理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計に生かす。

3 育てたいキャリア能力との関連

職業や進路にかかわる啓発的な体験を通して、学ぶことの意義の理解、進路適性の吟味と進路情報の活用、望ましい職業観・勤労観の形成、主体的な進路の選択と将来設計を立てる職業能力を育むことが期待される。

III 指導手順

1 目標の確認

活動に当たっての個人の目標を記入させ、主体的な進路の選択の意識をもたせる。

2 活動のねらいの整理

「どんな理由で一日体験を選択したか」を整理させる。それぞれの高校について、どのような目的で参加をしたのかを明確にさせる。

3 体験から得た情報の整理

一日体験に参加した高校の「いいな！魅力的だな！と思ったこと」について整理させる。

4 情報を生かした進路選択

進路選択をしようと考えた学校を絞り込み、その理由を書かせる。理由を書かせることで、選択した高校の特徴を整理することがねらいである。更に、高校生活を想定させて、「自分の力を伸ばす(発揮する)」という視点から目標を立てさせる。高校の特徴と自分の目指すものを整理させて目標を立てさせることが指導のポイントである。

絞り込んだ理由

<記述例>	<記述を見取る観点>
大学進学率も高く、また自分が入ろうと考えている部活動も積極的で大会等でも活躍しており、自分の描く高校生活を具体化する学校だと思っから。	【明確な根拠(理由)をもって進路を絞り込もうとしているか】 「大学進学率も高く、また自分が入ろうと考えている部活動も積極的で大会等でも活躍しており、自分の描く高校生活を具体化する学校」 ↓ 「進学」「部活動」という明確な理由をもって絞り込んでいる。

伸ばそうとする能力

<記述例>	<記述を見取る観点>
大学進学を果たすために自分の学力を高めることと、大好きな部活動で自分の持ち味を十分に発揮していきたい。	【高校の特徴と自分の目指すものを整理して目標を立てているか】 「自分の学力を高める」「部活動で自分の持ち味を十分に発揮」 ↓ 体験が得られた高校の情報を基に、自分の希望や特技を生かそうとしている。

5 総合的な自己評価

職場見学・職場体験・高校体験という3年間の系統性をもって繰り返しキャリア教育を学ぶので、今までの活動を総合して自己評価をさせ、達成度合いを測らせる。自己評価には、評価項目ごとに4点満点で判定して総合点を計算させる。